

# 大会運用細則

## 1. 総則

公益財団法人日本少年野球連盟（以下、連盟という）は、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の錬磨とスポーツマンシップを理解させることに努め、挨拶、規律を重んじる明朗な社会人としての基礎を養成し、次代を担う少年の健全育成を図ることを目的としている為、役員、指導者は連盟の規則、規約に従い、常に良識ある言動に努め、ボーイズリーグの精神、趣旨並びに方針に従い、選手に対して暴力・暴言を用いた指導をしてはならない。

## 2. 目的

連盟主催大会の規則、規約、大会規定、特別規定を遵守して大会をスムーズに運営することを目的とする。

## 3. 大会役員・審判員の役割分担と確認事項

- (1) 大会役員、球場運営委員、責任審判員は試合開始予定時刻 1 時間 3 0 分前までに担当する球場に集合し、球場責任者のもとミー

ティングに参加し、その日の進行及び役割を確認すること。

- (2) 大会役員、球場運営委員、チーム代表の服装は連盟指定に従うこと。

大会役員、球場運営委員、チーム代表の服装は原則として下記の通りとする。

夏季(6月1日から9月30日)

連盟指定の服装(帽子、ポロシャツ、ズボン)、指定の靴か白系統の運動靴。

冬季(10月1日から5月31日)

連盟指定の服装(帽子、ネクタイ、ジャケット、ズボン)、指定の靴か白系統の運動靴。白色のワイシャツ。

- (3) 球場責任者は、当該試合のチーム代表・責任者に対し、資格審査開始予定時間を伝える。

- (4) 大会役員はそれぞれ試合前の役割に分かれて準備を進める。

① 大会当日の試合数と試合開始時刻と球場の終了時刻の確認。

② 直前大会参加状況報告書(大会初日のみ)及び、登録役員選手名簿とオーダー表の確認。

③ 試合用のボールの確認。(1試合7個、一

部ロストボール可)

- ④ 記録員、アナウンス、試合記録用紙、計測用タイマー、球数カウンターの確認。
- ⑤ 試合担当審判員の人数、名簿の確認。
- ⑥ 試合会場の準備。
- ⑦ 開会式が行われる会場では、掲揚台に掲げる旗、人数の確認。

#### (5) 記録員・投球数管理

- ① 試合時間等は連盟の大会規定、特別規則を遵守すること。
- ② 試合時間を計る時計は本部席の記録員が管理する計測用タイマーを唯一のものとする。
- ③ 記録員は試合状況を記録用紙に記載し試合進行を管理する。
- ④ 球審のプレイボールのコールと同時にタイマーのスイッチを入れ、試合開始時刻を1回表終了後に場内放送する。
- ⑤ 試合経過と試合時間を見守り制限時間が過ぎた場合は直ちに控え審判に知らせる。
- ⑥ タイブレイクに入るような状況であれば、そのイニングの最終打者の確認を行うこと。

- ⑦ タイブレークは連盟の特別規則に従う。
- ⑧ タイブレークに入った場合は、打者、走者が所定の塁についたか、背番号を塁審に明示させ確認し間違いがなければ球審に伝える。
- ⑨ タイブレークの記録は連盟規定に従い記録する。
- ⑩ 投手の投球数を管理し、投球制限数(規定投球数)に達した時、球場責任者に伝える。  
(別紙 1 参照)

#### (6) 審判員

- ① 球場責任審判員は球場、グラウンドを視察し大会本部又は球場責任者と協議し、その球場のグラウンドルールを決め、当日の試合内容等を確認し審判員に周知徹底を図ること。
- ② 球場責任審判員は各試合の担当審判を決めて、球場責任者に報告する。
- ③ 審判員は担当する試合球場に開始予定時刻 1 時間前までに到着し、球場責任審判員に届け出て、当日のルール等について確認を行うこと。
- ④ 球場責任審判員より指名された控え審判

員は、正規な服装で指定された席で公認野球規則、連盟の特別規則、大会規定を置き試合経過と試合時間を注意深く見守る。

- ⑤ 審判員のサングラスの着用については、目に支障のある場合は、自分の目が相手側に判る範囲のものに限り、サングラスの着用を認める。(最初に球場責任審判員に届出ること)
- ⑥ 控え審判員は記録員から試合終了時間の報告を受け、球審に伝達する。但し、試合制限時間に達していても、正式試合の4イニングスが終了していなければ続行させる。
- ⑦ 延長戦については大会規定、特別規定に従い、球審は控え審判の補佐のもとに迅速に対処する。
- ⑧ タイブレイクに入れば、球審もしくは球場責任審判員が打者、走者に所定の塁に立つよう指示し、背番号を本部席に明示して記録員に確認させる。
- ⑨ 控え審判員は担当審判員が規則適用に誤りを犯している場合には誤った規則を適用されたチームの抗議に関係なく、その誤りを訂正させることができる。

- ⑩ 審判員の役割として、試合がスピーディーに進行するように積極的に、監督、選手に働きかける。
- ⑪ 審判員はルールに基づいたストライクゾーンの徹底を図る。

#### 4. チームの球場到着後の届け

- ① チームは試合開始予定時刻 1 時間前までに試合球場に到着し、代表(チーム責任者)は到着後直ちに大会本部に到着の報告をし、連盟所定のオーダー表 5 部と投手投球数記録表(副) 3 部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を提出して所定の審査を受けられるよう、準備し待機すること。
- ② 登録役員・選手名簿と指導者登録の変更と選手の欠席が生じた場合は欠席・変更届書を添付して提出する。(選手 1 名の欠席でも欠席届を提出、別紙 2 参照)
- ③ 登録された指導者において、やむを得ない理由によりノックができない場合は、「遅刻・欠席・変更・臨時ノッカー届出書」を提出することで臨時ノッカーを認める。その場合、当該の指導者はベンチで待機する。臨時ノッカーは指導者登録をされた者で、

背番号のないユニフォームを着用すること。臨時ロッカーはノック終了後速やかにグラウンドから退去する。

## 5. オーダー表の確認と取扱い

- ① 球場責任者は提出されたオーダー表5部と登録名簿と照合し、オーダー表の内容に誤記、記載漏れがないか確認し、間違いが判明した場合は、代表又はチーム責任者に修正させる。
- ② 審査後にオーダー表の誤記等の間違いが判明した場合、直ちに訂正させて罰則は適用しない。又、選手が誤った背番号を付けていた場合は判明した時点で正しいものに直ちに置き換えさせて罰則は適用しない。
- ③ ダブルヘッダーで次の試合に臨むチームは試合開始予定時刻15分前位までにオーダー表5部を球場責任者に提出すること。
- ④ 担当する試合の責任審判員は、オーダー表3部と投手投球数記録表(副)2部を持ち、両チームの主将、監督を集合させ先攻、後攻をジャンケンで決めて、オーダー表と投手投球数記録表(副)を両チームに配布する。

⑤ オーダー表の配布先は以下の通りとする。  
相手チーム × 1 ・ 審判 × 2 放送係 × 1 ・ 記録係 × 1 計 5 部

⑥ 投手投球数記録表(副)配布先  
相手チーム × 1 ・ 審判 × 1 ・ 記録係 × 1 計 3 部

## 6. 登録外選手が試合に出場した場合の処置

① 試合開始前に判明した場合は、その選手の出場を禁止する。

② 試合中もしくは試合終了後に判明した場合は没収試合とし、相手チームに勝利を与える。

## 7. 試合開始前の選手負傷による変更の取扱い

オーダー表交換後、試合開始前間にオーダー表記載選手が負傷又は病気のため先発出場が不能となった場合、控え選手を出場させることができる。この場合出場不能になった選手は、回復すれば以後の試合に出場することができる。

## 8. 資格審査方法と手順

① 審査員は原則として、大会役員が 2 名 2 組で行うものとし、使用用具の審査は審判員もすることができる。審査を受けていない用具はベンチへの持ち込みを禁止する。



- ② 審査はウォーミングアップを中断させないように配慮する。
- ③ 資格審査内容は、連盟の大会審査要項・連盟主催大会規定・特別規定に基づいて行うこと。
- ④ 指導者、選手を整列させ登録役員・選手名簿原簿と指導者登録証、審査証カードとの照合と有効期限の確認を行う。
- ⑤ 第2試合目のチームの審査は第1試合の4回終了を待たずに行ってもよい。又、4項①チーム到着後所定の審査を受けられるよう準備ができれば審査してもよい。

#### (1) 登録役員選手名簿との照合確認の手順

- ① 指導者(チーム責任者・監督・コーチ・マネージャー)、選手を審査員に向かって右からチーム責任者・監督・コーチ・マネージャー・選手の順に整列させ、指導者、選手の服装と指導者登録証の携帯と登録役員・選手名簿原簿との照合を行うと同時にカードの有効期限の確認を行う。
- ② チーム責任者は、チーム責任者証を所持し、試合中は所定の服装でベンチベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合ができない。

- ③ チームの責任者とは、チーム代表かチーム内で責任のある者で連盟指定の服装で、チーム責任者証を携帯している者。なお、チーム代表は代表証を携帯していればよい。
- ④ 監督(60)、コーチ(50)の背番号と役員用ワッペンを付けて、選手と同じユニフォームを着用し、選手と同様の同色系統のスパイクか運動靴の確認を行う。
- ⑤ 代理監督は背番号(60)と役員用ワッペンを付けて、選手と同じユニフォームを着用し、選手と同様の同色系統のスパイクか運動靴で審査を受ければ代理監督として認める。背番号(50)のままでは代理監督としてアピールはできない。
- ⑥ マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること。短パン Gパン 短パンにスパッツ、サンダルは認めない
- ⑦ コーチの年齢制限はないが、未成年者は監督の代行はできない。
- ⑧ 選手を右向きにさせてユニフォームの左袖に選手用ワッペンの有無を確認し、無い場合はベンチ入りを停止する。但し、試合終了までにつけて再審査を受ければベンチに入る

ことができる。

- ⑨選手を後ろ向きにさせて背番号の確認を行う。
- ⑩登録選手の審査は、登録役員・選手名簿の記載順に背番号を呼び選手を振り向かせ、審査証(写真確認)を提示させ、氏名・生年月日を口答させ、登録役員・選手名簿と照合確認する。内容が一致しない場合はチーム責任者に確認し、誤った記載があれば修正させる。
- ⑪鶴岡大会等の選手選抜大会においては、資格審査およびワッペンの貼付はしなくても良い。

## (2) 使用用具について

- ①試合で使用する用具は全て連盟指定業者(以下指定業者という)の物であること。指定業者については日本少年野球連盟の手引きを参照
- ②選手の整列を待たずに、選手が当日使用する全ての用具を整列させて連盟基準に沿って審査を行う。

## (3) 使用用具の審査事項

- ①ヘルメットは両耳付きで、S Gマークが付い

ていて、同色で安全な物(破損、ヒビ、クッションが動いている物は禁止する)を7個以上用意する。S G基準を満たした顎ガード付きヘルメットも使用可

- ② 捕手用具は必ず2セットの確認(急所カップ2個の確認)、クッションが外れている物は使用禁止とする。(捕手マスクはS Gマークが剥がれている場合、指定業者の用具であることを確認すること。)
- ③ グローブ、ミット類は綴じ紐が切損、切損状態になっている物は使用を中止させる。補修後は再審査のうえで使用を認める。
- ④ 綴じ紐が長い物は親指位の長さに短くするよう指導する。
- ⑤ 中学生の部のバットは金属製(S Gマークが付いているもの)及び木製(一本の木材で作られているもの)のみ使用が許される。
- ⑥ バットグリップのゴムや皮に緩み、ほぐれ、ほぐれそうになっている物は補修を指導し、補修ができない状態であれば使用禁止とする。但し、補修が完了し再審査を受ければ使用を認める。
- ⑦ バットの握り部分(端から18インチ、45.

7 cm)には、何らかの物資を貼付したり、ザラザラにして握りやすくすることは許されるが、18インチの制限を超えてまで細工したバットを試合で使用することは禁止する。

- ⑧ 金属バット表面に変形や凹み、ヒビ割れが無いかチェックする。発見した場合は使用禁止とする。
- ⑨ 小学生の部のバットは82cm以下で連盟のマーク(刻印)及びSGマークが付いていること。連盟のマークシールは不可。
- ⑩ スパイクの色は同系統色で、ライン色はスパイク色と異なっても良いが同系統色であること。ラインの形状は問わない。
- ⑪ 中学生の部のスパイクは金具か一体成型のポイント式であること。
- ⑫ 小学生の部は一体成型のポイント式であること。
- ⑬ 小学生の部において、スパイクを履いている状態で右側、左側の踵を上げさせ一体成型であるか確認し、又、損傷の有無を確認する。
- ⑭ 打撃用グローブは指定業者のものであれば、色は規制しない。
- ⑮ リストバンドの使用を認める。色は規制し

ない。

- ⑯ エルボーガード、レッグガードは指定業者のものであるか確認を行う。
- ⑰ 各項に対して規則違反と判断した場合は、是正するよう命じる。使用に適さない用具は球場大会本部に於いて一時的に預かり試合終了後に返還する。

## 9. 禁止事項

- ① 指導者、選手のロングパンツ、腰パンツは禁止とし、パンツの裾は膝下まで上げること。
- ② 中学生は小学生用のバットの使用を禁止する。又、ベンチ内にマスコットバット、鉄棒、バットリングの持ち込みを禁止する。
- ③ ペットボトルに砂利、プラスチック玉等を入れて球場内での使用を禁止する。
- ④ 隠し球を禁止する。
- ⑤ ベンチ入りする指導者のサングラス着用及び帽子上も禁止する。但し、医療的に必要な場合は事前に球場責任者に届け出ること。
- ⑥ 選手は剃り込み、眉毛の剃り落とし、茶髪は禁止とし、行っている場合はベンチに入れない。但し、特別な理由がある場合は事前に球場責任者に届け出て、許可を得ること。

- ⑦ 選手、指導者を問わずネックレス、ブレスレット、ピアス等の着用を禁止する。但し、外見に露出させなければこの限りではない。
- ⑧ ベンチに入る指導者の髪形は連盟の趣旨を理解し、少年野球の指導者としてふさわしい清楚な髪形とする。
- ⑨ 指導者は選手に対し試合、練習を問わずいかなる場合でも暴力、暴言、体罰を禁止する。
- ⑩ グラウンド、ベンチ内で指導者としてふさわしくない行為で(暴力・暴言)注意され、繰り返し行った場合、当該審判員が球場責任者及び責任審判員と協議し、責任審判員が退場を命じることができる。
- ⑪ 走者、ベースコーチが捕手のサインを盗んで打者に伝える行為を禁止する。
- ⑫ 故意の空タッチ、意図的な強いタッチはしないこと。
- ⑬ 審査を受けていない用具はベンチ内への持ち込みを禁止する。
- ⑭ ベンチ内では携帯電話のスイッチを切り使用を禁止する。

- ⑮ ノック及びシートノックができるのは、当該試合に登録されている監督、コーチのみとする。但し、やむを得ない理由によりノックができない場合は、「遅刻・欠席・変更・臨時ノッカー届出書」を提出した臨時ノッカーのみとする。
- ⑯ 本塁からの内外野へのシートノックは、ノッカー1名とする。なお、内野ノック時の外野ノックは一塁または三塁後方のファウルテリトリーからのみとする。
- ⑰ 登録選手以外のグラウンド、ベンチ入りを禁止する。
- ⑱ 特別な理由がない限り、監督、コーチ以外の指導者のグラウンド入りを禁止する。  
(⑮で届け出た臨時ノッカーはシートノックの時のみグラウンド入りを認める)
- ⑲ グラウンド内に入る監督、コーチはユニフォームで入る事、グラウンドコート着用のままは禁止。
- ⑳ マネージャーのユニフォーム、ハーフパンツ、ジーパン着用は禁止する。

## 10. 安全対策事項

- ① トスバッティングを行う時はヘルメットを



着用すること。

- ② 球場の防球用ネット及びスタンドに向かっ  
てのバッティング練習（トスバッ  
ティングを含む）は禁止する。
- ③ ネクストバッタース・ボックス内では安  
全に留意し、待機する。
- ④ グラウンド内でのノック、シートノック  
時の補助要員（ボールキーパー）は必ずヘル  
メットを着用すること。
- ⑤ 捕手が座って投球を受ける時は必ず規定  
の捕手用具を着用すること。
- ⑥ 試合中、ベンチ横で1名の素振は認め  
る。なお、素振りをする選手及びボール  
ボーイは必ず両耳付きヘルメットを着用  
すること。
- ⑦ 試合中の投球練習は2組までとする。
- ⑧ 試合中、グラウンド内のブルペンでの投  
球練習を行うときは、試合投手の投球動  
作を注視しながら、又、打者の打球等に十  
分注意すること。
- ⑨ 小学生の部の選手は安全対策のため、胸  
パッドを着用するよう心がけること。
- ⑩ 試合、練習を問わず雷雲を感じた場合は

(音、稲光)直ちに中断し様子を見る。なお遠くに発生した場合でも状況を判断して中断の処置をとる。

- ⑪ チームは安全対策として、救急箱 A E Dを必ずベンチ内に持ち込むこと。
- ⑫ 大会本部は安全対策として、A E D、救急箱の設置に努めること。尚、公営球場のA E Dの設置場所の確認を行っておくこと。
- ⑬ 指導者は練習、試合を問わず選手の体調を管理し、熱中症、光化学スモッグにたいし十分注意を払うこと。

## 11. 試合についての注意事項

- ① 試合開始前の整列時は、選手と共に監督・コーチも整列を行う。また、チーム責任者とマネージャーはベンチ前にて整列を行う。
- ② 試合が時間内に終了するように球場責任者、球場責任審判員がミーティングして相互に確認を行う。
- ③ ベンチに持ち込むメガホンは2本とする。監督、コーチの使用に限る。
- ④ 監督、コーチは試合、練習を問わず、試合を時間内に終了させるため四球、死球、攻守交代時は全力疾走し、サイン交換もス

ヒーファイにさせるように指導を行うこと。

- ⑤ 監督のサインは複雑なものを避けてスピーディに出せるように努める。
- ⑥ 投手は審判からボールを受け取るとき、打者が打席に入るときは脱帽しなくてよい。
- ⑦ ボール回しは、ひとまわりとする。最終野手は投手に近寄らず自分の守備位置より返球すること。但し、4回以降もしくは試合開始より1時間を超えた場合、試合の進行上禁止することがある。
- ⑧ 捕手が2アウト後の次打者の場合でもプロテクターを取り外して待つこと。
- ⑨ 打者がサインを見る場合等、むやみにバッタースボックスを出ないこと。手を上げて見ないこと。
- ⑩ ネクストバッターズサークルへは必ず次打者が入り、投手が投球動作に入った時は、安全に留意し待機する。また、ボックス内には自身が使用するバット以外持ち込んで서는ならない。
- ⑪ イニング間のミーティングは試合進行を妨げないようにスピーディに行うこと。
- ⑫ ベースコーチ、先頭打者はミーティング

に入り所定の位置に付くこと。

- ⑬ 試合中、フィールド内(室内練習場を含む)で次試合投手のブルペン使用はできない。
- ⑭ 次試合の開始予定時刻は、球場責任者が決定する。概ね、グラウンド整備、シートノックの時間を30分以内とし、ダブルヘッダーの場合は前試合終了後30～40分以内で協議する。
- ⑮ 試合終了後、両チームの選手は直ちにベンチを空けてグラウンド整備を手伝うこと。
- ⑯ 監督のアピール、選手の交代等は、ロスタイムに計上しない。ケガの治療で時間がかかる場合は責任審判員の指示で計測用タイマーを停止する。
- ⑰ 試合の残り時間をみだらに明示しない。
- ⑱ スピーディな試合を行うために、ケガの処置等でロスタイムが生じる可能性のある場合は、臨時代走を起用する。
- ⑲ 審判員の判定に対する抗議は認めない。但し、ルールの適用についての確認は認める。
- ⑳ 試合の延滞行為が明らかかな時は、責任審判員が該当チームの監督またはコーチに注意を与える。

- ②① 試合前のシートノックの時間は後攻側より5分以内とする。但し、試合進行の都合で省略することもある。開始や終了は放送で案内し時間を遵守させること。
- ②② 監督、コーチが指導、指示を与える時間は、審判員がタイムと宣告してから30秒以内とする。守備側がマウンドへ行く場合は駆け足で行くこと。
- ②③ 試合を早く進める為に投手に不必要なけん制を自粛させる。
- ②④ 内野手が必要以上にマウンド付近に行き過ぎないように注意する。
- ②⑤ 選手のサングラス使用については責任審判員がプレーに支障があると判断した場合は使用を認める。又、選手の中で医療的なサングラスが必要な選手は、資格審査時に、審査員に診断書を見せ許可を得て使用すること。
- ②⑥ 打者走者がエルボーガード、レッグガードを取り外す際、2塁走者の時のみタイムをかけ、ベースコーチが走って取りに行くこと。

## 12. 選手のマナーについて

- ① きちんとした服装でプレーすること。
- ② 審判員や相手を問わず暴言や汚いやジをとばさないこと。相手チームに対して威圧を与える行為や威嚇するような発声を禁止する。選手は常にフェアプレーの態度でプレーすること。
- ③ 打者は捕手の後方で投球の偵察をしないこと。
- ④ 野手の手袋がわりのテーピングは負傷を確認してから許可する。
- ⑤ 使用したグラウンドの整備及びベンチの清掃と後始末をきちんと行うこと。

## 13. 危険防止

- ① 野球規則上の守備、走塁妨害行為に対して厳しく対処する。
- ② スパイクの歯を立て、野手に向かってスライディングする行為を禁止する。ラフプレーは厳禁。この行為を行った場合は当該審判より選手および監督またはコーチに嚴重注意をする。
- ③ ベースコーチは試合、練習を問わず必ず両耳付ヘルメットを着用すること。

## 14. 連盟指定業者

連盟では、より安全でより良質の野球用品を使っ  
てもらうため、そうした製品を製作しているメー  
カーを指定している。審査対象になる野球用品の  
全てについて、これら業者の製品を使用すること  
が義務付けられている。野球用品、スポーツメー  
カー以外の業者も日本少年野球連盟の手引きに  
記載されているので参照すること。

## 15. 使用用具について

用具の規定、制限については、本ハンドブックにも  
明記しているが、詳細については連盟ホームペー  
ジなどに掲示している“ボーイズリーグ用具につ  
いて”にとりまとめしているので参照すること。

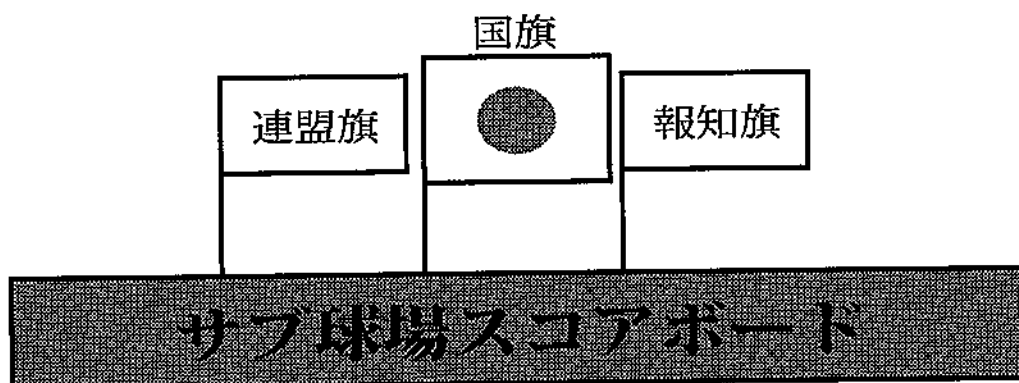
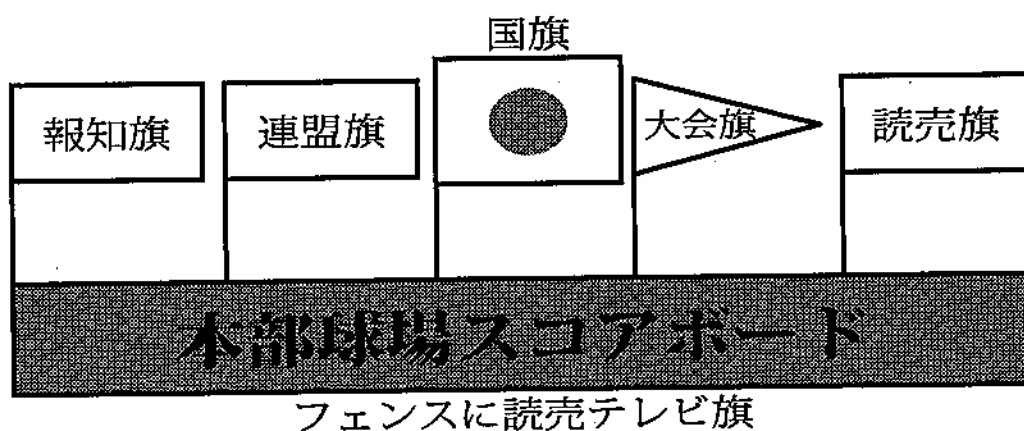
## 16. その他

- ① ボールボーイを4～6名置くことにする。  
但し、安全に十分注意し、両耳付ヘルメッ  
トを着用のうえベンチ横及び1・3塁側  
のファールゾーンで座って待機する。自  
チームのバット引き及びシートノック時  
のボール渡しを禁止する。
- ② 試合中の場内放送はプロのアナウンスを  
依頼するか、又は、各チームの協力を得て  
実施していく。

## 開会式の掲揚台の旗の順番等

ホームベースより向かって

1. 中心に日章旗（日の丸）
2. 中心の左側 連盟旗
3. 中心の右側  
(本部球場) 大会旗、読売新聞社旗  
(サブ球場) 報知新聞社旗又はその他
4. その他掲揚台用ポールの本数等により異なる



## 開会式、閉会式の整列順等

入場行進時の選手整列は、身長順とする。閉会式（表彰式）の選手整列は次の通りとする。

マウンドを中心として3塁側を中学生の部、1塁側を小学生の部とし、優勝チームを前列、準優勝チームを後列とする2列で整列。各チーム内の



整列順は背番号順とする。

小学生の部と中学生の部が別に行われる場合は、優勝チームは 3 塁側、準優勝チームは 1 塁側とする。

なお、閉会式(表彰式)には団旗は不要とする。

鶴岡一人記念大会は 3 塁側を中学生の部、中央を女子の部、1 塁側を小学生の部とし、優勝チームを前列、準優勝チームを後列とする 2 列で整列。

## 役員整列

指導者は 1 塁側、審判員は 3 塁側、大会役員はホームベース後方に整列する。

[2022 年 8 月改正]

# 別紙 1-1 投手投球数記録表(正) 表

(公財)日本少年野球連盟

## 投手投球数記録表(正)

大会名 \_\_\_\_\_ 大会 \_\_\_\_\_

チーム名(小・中) \_\_\_\_\_ ボーイズ \_\_\_\_\_

(表)

		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							

◎投手投球回数記録表(正)は当該大会が終了するまで保管し各試合の球場責任者に提出・引継ぎすること。裏表で足りない場合は2枚使用する。  
 ◎投手投球回数記録表(副)3部は各チームが記入し各試合ごとに球場責任者に提出すること。副1枚は球場責任者が最終試合まで引き継ぐこと。  
 ◎翌日の試合以降、投手投球回数記録表(正)と(副)3部は球場責任者または各チームが翌日の球場責任者に提出すること。

# 別紙 1-2 投手投球数記録表(止) 裏

(裏)

		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
背番号	投手氏名	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦
各試合ごとの球数		球	球	球	球	球	球
翌日・第二試合投球可能数		球	球	球	球	球	球
球場責任者確認署名欄							

### 【中学生レギュラーの部・ジュニアの部 投球制限ガイドライン】

- ①1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。また3連投(連続する3日間)する場合は、1日の投球数を40球以内とし、4連投(連続する4日間)は禁止する。
  - ②大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可能とする。
  - ③基本原則①～②とするが、打席の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
  - ④連続する2日間で80球を超えた投手並びに3連投した投手は、翌日は捕手としても出場できない。
- ※ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は、連続2日間投球したこととする。1試合のみの投球の場合は1日とする。
- ※中学生ジュニアの部は別途ガイドラインを参照

### 【小学生レギュラーの部・ジュニアの部 投球制限ガイドライン】

- ①1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。また、3連投(連続する3日間)は禁止する。
  - ②大会中は1日70球以内とし、翌日投球を休めば3日目は70球の投球を可能とする。
  - ③基本原則①～②とするが、打席の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
- ※小学生ジュニアの部(5年生～4年生)、キッズの部(4年生以下)は別途ガイドラインを参照
- ※ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は、連続2日間投球したこととする。1試合のみの投球の場合は1日とする。
- 投球数のカウントについて
- ◎ボークは投球数としない。(ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。)
  - ◎当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数はカウントしない。
  - ◎雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。



